

腹話術落語で世界中の人たちの笑いを誘う

女性落語家

笑福亭笑子さん

イシタビュー

しょうぶく ていしょうこ

相棒とも言える人形と一緒に落語を披露する笑福亭笑子さん。ラジオアナウンサー、司会、腹話術師、おしゃべりキャリアは10年と長く、ロンドンを拠点に「腹話術落語」で精力的に活動中だ。ラジオ番組で出会った鶴笑師匠の「パペット落語」に感動し、その脈を次ぐ。4月23日には、日本からのスペシャルゲストも招き「ソーホー・ジャパン」で落語寄席を開催される笑子さんにお話を伺った。
(取材文/葉月みな)

UK ジャックも応援します!

笑子お笑い寄席

4月23日(日)
開場: 13時30分 開演: 14時
料金: 大人£6、学生£5、子供£3
会場: Soho Japan 地下1F
52 Wells St, London W1T 3PR
最寄駅: Oxford Circus / Goodge Street
[問い合わせ & チケット予約]
Tel: 0790 152 4292
Web: info@show-ko.com

日本からのスペシャルゲスト

ナオユキ

憲法漫談、時事ネタを得意とする一人漫談師。漫才『タックスープ』のコンビで、大阪道頓堀角座にもレギュラー出演。芸歴20年のベテラン。

Mr. 阪野

落語作家とコメディーマジシャンという2つの顔を持つ。コメディーマジック歴10年。

初めは交通安全職員をやっていたとか

就職活動の際、職案内の掲示板に警察の交通安全教育部門募集の「シラ」が貼ってあり、『腹話術』と書かれていたんです。そこに魅かれて交通安全指導員になりました。パペットを使った中の就職で選べる状況だったので、親は驚いていました。職場で腹話術とマジックを習って、お年寄りや子どもたちに交通安全を伝えていました。

その後、アナウンサーに

国籍を問わず色々な人とコミュニケーションしたいと思っていたので、まず英語を勉強しようとカナダに留学しました。帰国後、アナウンサー・スクールに通って資格を取り、関西のラジオ局で仕事を。その後、シンガポール国営放送局のアナウンサーの機会をいただきました。仕事は大きく分けると、現地に住む日本人向け番組と、シンガポールの人に向けた英語での日本文化紹介番組の2つ。日本の歌謡曲とかを流していて、「こんなの興味があるのかな」と思っていたのですが、リクエストの葉書とか電話もじゃんじゃん掛かってきて驚きました。

その仕事で師匠と出会われた

ラジオ番組に出演してくださった鶴笑師匠の『パペット落語』を観て「自分のやりたいものはこれだ」と感動しました。こんなこと言ったら怒られてしまいますけど、もともとは落語に惹かれて、という訳ではなかったんです(笑)。

師匠が始められた、『パペット落語』は人形とやり取りしながら進める新しいスタイルの落語。すでに師匠は10年位やられていて、日本人として初めてモントリオール国際コメディ・フェスティバルに招待されたり、世界的に評価されていました。あんな斬新なものを見たことがありませんでした。以前から漠然と英語で腹話術ができたらと思っていたのですが、世界で共有される「笑い」というのがあった。やろうと思えばできるんだと夢中になりました。



アナウンサーから落語家に弟子入りとはすごい転換ですね
思ったらやらないと気がすまない質なんです。師匠に弟子入りさせていただいて、シンガポールをベースに活動されていた師匠が次は英国に行かれるということで、一緒に英国に行くこと決めて。既に今の主人と知り合っていて、当時は2人で決めた将来の計画みたいなものもあったんですが、勝手ですね。1人で決断してしまいました(笑)。

笑子さんの求める笑いのスタイルとは

『パペット落語』は、老若男女、世界共通で人を笑わせることができる、ほのぼのとしたスタイルの笑いなんです。そこに自分もともとやっていた腹話術をミックスしています。はじめは興味のなかった落語も、日本文化を伝える重要なもの

英国の方の落語の受けは

落語を説明する時に、私はジャパニーズ・シンタウ・コメディと説明させていたんですが、こちらのコメディはお客さんのやり取りがあるもの。落語は「シフター」と捉える方が多いようです。古典落語をそのままやっていたのでは英国の方に理解できないと思うので、落語のストーリーをベースに、腹話術のケンちゃんや色々工夫を重ねています。直訳しても笑ってもらえないし、変えすぎてもダメ。こちらの人のツボを掴んで、日本の落語の世界を笑ってもらえるようにしたいですね。

時には失敗も?

落語の中で「ちょっと上ってきてください」と芸をやる上で台詞を言ったら、お客さんは自分が呼ばれていると思っただけで、舞台上がってきませんでした。日本の方だったら落語を聞いたことがなくても、なんとなく分かる。そういうことが、全く通じないので、日本と同じことを期待しちゃダメですね。こちらの方って、大人の方でも「オー」とか「ワ」とか一喜一憂されるのが自然。そんな反応があつてこそ、英国での落語なのだと思つようになりました。

今後やっていきたいことは

基本的な落語をもっと勉強しながら、師匠のモットーでもあるNO.1よりもオンリー1の芸人として、さらに多くのシヨウをやりたいです。これまでのようにいろいろな場所に人形を持って行って「やらせて下さい」と飛び込みをして、多くの方に笑ってもらう機会を作ったり、落語を用いて、子どもたちへのボランティアもやりたいですね。

お婆さんになっても腹話術落語をやりたいと語る笑子さん。現在、6カ月の身重の体で精力的に活動されている姿は、圧巻! 日本の伝統文化である落語と腹話術をミックスし伝えていく、笑子さんの笑いに皆さんもぜひハマってみてください。UKジャックも協賛、応援しています。



PROFILE

神戸市出身、本名・小野綾子。シンガポールでバイリンガルアナウンサーとして活躍している時に、笑福亭鶴笑師匠と出会い弟子入り。04年、師匠の文化交流使派遣に伴い渡英。現在は、ロンドンを拠点に、師匠について小学校、高校、養護学校、大学、病院にて公演やワークショップを行っている。05年ノーウィッチパペット劇場25周年フェスティバルでの、初ソロショーが大好評。以降、ソロでもイベント、コメディークラブ、劇場などで精力的に活動中。5月には、英国で2番目に大きなフェスティバル「フリンジブライトンフェスティバル」に出場決定。www.show-ko.com

